

off Shot



春の訪れを告げる桜が満開になる4月初旬、全国各地で高校生活がスタートしました。私は桜が咲くこの時期になると、自分が高校に入学した頃のことを思い出します。私が通っていた中学校は頭髪の校則があったため、少し伸びた前髪を気にしつつ高校に通い始めました。学校の校庭には桜の木が多く並んでいて、その木々を背景に1年次のクラス写真を撮影したのですが、その時、少し伸びた前髪に桜の花びらが落ちてくるのを払いながら、撮影の準備をしていたことを覚えています。

今号が発刊されたら、私は『VIEW next』を携えて、全国のどこかの高校にお邪魔していると思います。その時にはもう桜は散ってしまっているかもしれません、高校生活が動き始めた1年生たちはこんなことに気づいて成長の第一歩を踏み出した、といったエピソードをぜひお聞かせください。(伊藤)

VIEW next公式アカウント

LINE@

友だち募集中!



『VIEW next』のLINEを友だち登録していただければ、本誌の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届き、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』内の該当記事に、ダイレクトにアクセスできます。この機会にぜひ、友だち登録をお願いします!

[友だち登録の方法例]

- ・(方法①) 上の2次元コードを読み取る
- ・(方法②) LINEアプリの「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」と入力して追加

Reader's VIEW

2025年1月号へのご意見

先生方からの
ご意見を
紹介します

5つの事例から、様々な学校課題に対応できる可能性を感じた

1月号の特集の課題整理を読み、今の学校教育が抱える課題を改めて理解することができた。学校が社会とつながり、多様な生徒を育てている事例1~5の実践を組み合わせて、よりよい方法を見いだすことができれば、様々な学校課題に対応することが可能になると感じた。学校の小規模化による教育課程の編成は難しい課題だが、特集の記事を参考に工夫できることがあると分かった。

徳島県 匿名希望

授業形態の固定観念からの脱却が必要

1月号の特集の事例1・北海道高等学校遠隔授業配信センターの記事を興味深く読んだ。私は地元が北海道で、地域によっては大学入試対策が満足にできないと聞く。授業配信を専門に行う機関があれば、そのノウハウやトラブルの対処法などが蓄積され、継続可能なシステムになるはずで、それを各校で活用できたらよいのではないかと考える。例えば、同じコースで同じ教科書を使う授業を行う時は、各教室に授業の動画を配信し、教師は各クラスで生徒を個別に支援するといった方法だ。生成AIの活用も踏まえ、今の授業形態が当然といった固定観念からの脱却が必要な時期に来ていると感じた。

北海道・私立札幌創成高校 西根孝律

通信制課程の課題は、未来の全日制課程の課題かもしれない

1月号の特集の事例では、定時制課程や通信制課程の実践が取り上げられていて新鮮だった。定時制課程や通信制課程は今後、中学生の進路先の1つとして定着するだろうと思った。私は全日制課程の高校に通信制課程を新設するプロジェクトにかかり、現在は通信制課程に籍を置いている。設置されたばかりの課程のため、生徒数がまだ少なく、授業や学校行事などの運営に制約があり、日々工夫して取り組んでいる。これから全日制課程の生徒数が減少していくかもしれないと思うと、全日制課程における未来の課題を、今の通信制課程が先取りして実証しているのかもしれない。

静岡県 匿名希望

生徒の言葉に耳を傾け、生徒との接し方を変えた教師に感動

1月号の「先生なら、どうしますか?」の記事を読み、大阪府・私立箕面自由学園高校の大東範行先生が、生徒との接し方を変えた勇気に感動した。ベテランになると自分の考え方を変えるのは大変だが、教師は生徒の言葉に耳を傾け、生徒を信じて行動すべきだ。ウェブオリジナル記事にある、大東先生に憧れて教職の道に進んだ教え子とのエピソードを読んで、より強くそう思った。

大阪府 匿名希望

現状に満足せず、授業改善をしていく重要性を再認識

教師が授業のやり方を変えることにどれだけの不安が伴うかを考えると、1月号の「主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介された山形県立鶴岡中央高校の五十嵐雄大先生が、授業のやり方を模索する姿勢に胸を打たれた。五十嵐先生は過去に作成した授業プリントも活用しており、それまでの自分のやり方を基に改善されていることが分かった。自分も現状を維持することに満足せず、生徒に身につけてほしい資質・能力を踏まえた授業に改善していくこうと思った。愛知県・豊橋市立豊橋高校 安田雪絵

VIEW next

高校版 2025年7月号

7月4日発刊
(予定)